



持続可能なアウトドアを目指して

THE 11TH OUTDOOR LEADERSHIP CONFERENCE



June 3 ▶ 4, 2023
Yambaru, Okinawa

主催：一般社団法人Wilderness Education Association Japan / 共催：NPO法人 Leave No Trace Japan
協賛：株式会社モンベル / キーン・ジャパン合同会社 / 株式会社YOLO / 株式会社信州アウトドアプロジェクト /
ひの自然学校 / backcountry classroom Inc. / Essential Education Center / 西日本新聞社 /
沖縄県キャンプ協会
後援：沖縄県 / 株式会社沖縄タイムス社 / 国頭村観光協会 / 東村観光推進協議会 / 大宜味村観光協会 /
一般社団法人ガールスカウト沖縄県連盟 / 日本ボーイスカウト沖縄県連盟 / 国頭村森林公園





FORWARD

沖縄からアジア、そして世界へ
～地域が求める野外教育を探して～

To the World from Okinawa and Asia
– Discovering outdoor education
the local communities needs.



アウトドアリーダーシップカンファレンス 実施概要

当カンファレンスは、野外指導者の育成及び情報交換を目的とし、国外講師による基調講演や参加者の相互育成を図るワークショップや研究会、各種企業・団体による展示会、主催からの表彰式など、野外教育に関する各種プログラムを2日間にわたり各地にて実施することで、最新情報の発信や新たなネットワークづくり、人材育成等に繋がります。

2023年は沖縄本島北部やんばる地方で開催します。

CONTENTS

Forwrdard	1
Program	3
Greeting writing	4

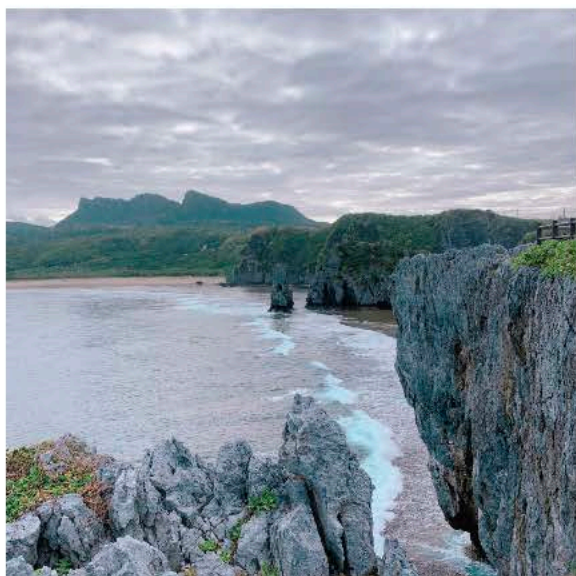
June 3

Opening Keynote	8
Symposium	9
Workshop 1	13
Workshop 2	17

June 4

Workshop 3	21
Workshop 4	25
Research Seminar.....	27

Exective Committees.....	29
--------------------------	----



PROGRAM

6/3 sat

12:00	受付 / Reception start
13:00	オープニング / Opening
14:00	オープニングキーノート / Opening Keynote
15:00	ワークショップ 1 / Workshop 1
17:00	ワークショップ 2 / Workshop 2
19:00	アワードセレモニー オークション / Ceremony

6/4 sun

9:00	ワークショップ 3 / Workshop 3
11:00	ワークショップ 4 / Workshop 4
13:00	シンポジウム / Symposium
15:00	クロージング / Closing
16:00	終了 / Endmony

PLACE

公立大学法人 名城大学
学生会館 SAKURAUM 6階
スカイホール 沖縄県名護市字為又1220-1
SAKURAUM building at MEIO University,
Nago city in Okinawa prefecture.



Greeting writing

カンファレンステーマ『沖縄からアジア、そして世界へ』

ハイサイ。グスーヨー チューウガナピラ。

このたび、世界有数の自然環境を有する沖縄やんばる（山原）の地で、THE 11TH OUTDOOR LEADERSHIP CONFERENCE を開催することができ、大変光栄に存じます。

ここやんばるは世界有数の自然を有しています。エメラルドグリーンの美ら海（ちゅうらうみ）については世界中で有名ですが、それだけではなくやんばる国立公園、沖縄海岸国定公園、多くの自然保護区、鳥獣保護区があります。2021年7月26日には、白神山地、屋久島、知床、小笠原について日本で五番目の世界自然遺産に登録されました。そこで改めて、やんばるの海、山、森、川、湖沼、地形、生物、景色等の自然、そしてそれらの自然と共に育まれた独特な文化の魅力に注目が集まっています。

現在は世界中に大きな影響を与えたコロナ禍が収束しつつあり、国内旅行者も訪日外国人旅行者もコロナ禍の以前の状態以上の回復を見せると予想されています。このやんばるの自然においても世界中から多くの野外活動者が訪れ、感動を共有し、友情を深め、人として成長し、それぞれの人生において忘れられない思い出を刻んだ大切な場所として記憶され続けることを願っています。

しかしながら、その期待と同時に、オーバーツーリズムにより自然破壊が起こり、この貴重な自然が失われてしまうのではないかと懸念も存在しています。これは単にやんばるだけの問題ではなく、自然が豊かで魅力的な野外活動実践が行われている世界中全ての地域に共通する課題です。

そのような事態にならないためにはどうすればよいのか、持続可能な野外活動方法の確立、そしてその活動方法を広げる指導法、そして、そのことを広く国境を越えて国際的に共有することが重要です。そこで、今回はアジア各地で活躍する指導者を招聘し、カンファレンスを開催することといたしました。

今回のカンファレンスでは、“グローバル”の考え方が特に重要になってくるでしょう。すなわち、国、民族、言語を越え共有することができるグローバルで普遍的な価値観や活動原理と、それぞれの地域の自然、歴史、伝統、文化に合わせた個別のローカルな活動形態、この2点に関してディスカッションが進むことを願っています。参加者の皆様には、多様性への理解、寛容の心を持ってこのディスカッションの輪に参加して頂ければと思います。

このカンファレンスが、国際的な野外教育、野外活動の発展を視野に入れた成果を上げ、情報と価値観を共有したやんばる、沖縄、県外、国外の指導者が、相互に行き来する活動が生まれてくることを期待してやみません。

また、このカンファレンスの内容は、野外活動指導者向けではありますが、上級者から初心者までの県内外・国内外の野外活動愛好者、アウトドアツーリズムを通じてやんばるの地域創生に携わっている方々にとっても貴重な機会になると思います。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

そして、やんばるの自然の魅力は、とても1日や2日で体験し尽くすことができません。ここ数年でテレワーク、ワーケーションが一気に広がりましたので、今回県外・国外からご参加の皆様には、ぜひスケジュール調整の上、できれば1週間、さらに可能であれば10日間、2、3週間、1ヶ月以上の長期滞在をお勧めいたします。それぞれの期間に合わせてやんばるの自然・文化をよく味わうことができる体験・活動がありますので、お気軽に実行委員へご相談ください。

沖縄を象徴する言葉に万国津梁（ばんこくしんりょう）があります。今回のカンファレンスを通じて、アジア、全国各地との架け橋となることを願って、実行委員一同準備を進めております。開催にあたってご支援くださっている多くの方や組織の皆様に感謝申し上げます。

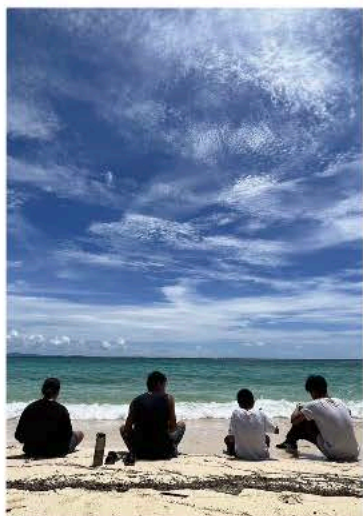
やんばるの地でみなさまとお会いできることを楽しみにしております。
ユタシク ウニゲーサピラ！

- 11th アウトドアリーダーシップカンファレンス 実行委員長 -

名城大学 上級准教授 遠矢 英憲

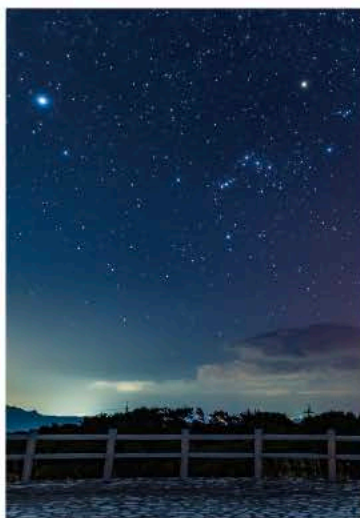


Welcome to the world natural heritage “Yanbaru”
世界自然遺産「やんばる」へようこそ！



伊江島
Ie Island

沖縄県 本島北部 伊江村



国頭村森林公園
Kunigami Forest Park

沖縄県 本島北部 国頭村



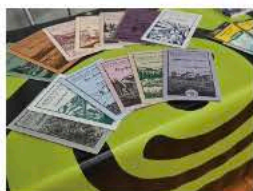
エクスカーション:ネイチャーガイド
Excursion: Nature guide

森林散策、生きものの観察



エクスカーション:ネイチャーガイド
Excursion: Marine activity

カヤック、SUP etc



昨年度 10 回目カンファレンスの様子

前回は東京浅草で開催されました。
キーノートへの傾聴や各種ワークショップの体験により
頭と身体両方を使い効果的に
アウトドアで生きる学びが得られる場です。
- The scene of 10th Conference last year.

NEVER NOT ORIGINAL

SINCE 2003



KEENFOOTWEAR.JP | #KEEN #NEWPORT



Opening Keynote 6/3 14:00 - 15:00

台湾

Guan-Jang Wu,

Professor
National Taiwan Sport University

国立台湾体育大学
レクリエーション・レジャー産業管理学部教授

■学歴

- ・レクリエーション公園管理局
- ・インディアナ大学インディアナ州ブルーミントン

■哲学博士

- ・専攻：余暇行動
- ・副専攻：カウンセリング心理学（APA 認定）
1999年3月～2000年6月 デンバー大学、コロラド州デンバー

■理学修士

- ・専攻：リゾート及び観光管理
1992年10月～1996年10月 国立政治大学、台北、台湾

■法律学士

- ・専攻：法律



研究への関心とアウトドアスキル

アウトドアリーダーシップ／アドベンチャー教育／スラックライン／アドベンチャーツーリズム／自然志向／痕跡を残さない／スラックライン／原始的なスキル／リポートレース／キャニオニアリング

Teaching

- 8/18～ 現教授
- 8/13～ 7/18 台湾桃園市国立台湾体育大学レクリエーション・レジャー産業管理学部准教授
- 7/7～ 8/13 台湾桃園市国立台湾体育大学レクリエーション・レジャー産業管理学部助教授
- 8/6～ 7/7 台湾桃園市国立台湾体育大学レクリエーションレジャー産業管理学科講師
- 12/5～ 1/6 トレーナー、台湾往路
- 8/5～ 8/5 共同講師、Outward Bound Wilderness、ワシントン
- 9/2～ 9/4 インディアナ大学、レクリエーションおよび公園管理学部、R100 ロッククライミング入門講師
- 8/1～ 9/3 旅行コーディネーター、インディアナ大学アウトドアアドベンチャーズ、インディアナ州
- 7/3～ 8/3 ワシントン州ナショナルアウトドアリーダーシップスクール(NOLS)アウトドアインストラクター

最近の出版物

- ウー、G.J.(2022). 屋外レクリエーションにおけるメタバースの応用。台湾登山会議。台湾、宜蘭。
- Huang, C. および Wu, G.J. (2017). 観光とレクリエーションにおける消費者行動。台北、台湾。
- ウー、G.J. および イェ、W.L. (2017). 目的を持った山の冒険：大学オリエンテーションプログラムへの創造的なアプローチ。2017 ホスピタリティ、観光、レジャーに関する国際会議。台湾、新北。
- Chiu, Y., Wu, Y., Wu, G. (2015). 台湾でのスキューバダイビング。
- アウトドアリーダーシップに関する国際会議、米国オクラホマ州ノーマン。
- ウー、G. (2013). 冒険の暗い側面：高地登山遠征に関する登山家の大切な人たちのストレス対処法を探ります。生活の質における応用研究、8(4)、449-465。

賞と証明書

- 2015 年 WEAJ アウトドアインストラクター賞を受賞
- 2017 年 WEA アウトドア教育者賞を受賞
- Leave No Trace マスターエデュケーター／ウィルダネス ファーストレスポnder／AMGA トップロープマネージャー
- ACA キャニオニアリング キャニオンリーダー

Symposium 6/4 13:00 ~



マレーシア

BRANDON CHEE

Outdoor Educator

屋外教育分野で28年の経験を持ち、アジア太平洋地域全体でエディンバラ公の国際賞プログラムを実施する経験も積んできました。それに加えて、国際災害救援ミッションや現地捜索救助救援ミッションにも携わりました。彼は環境と荒野の厳格な医学にも強い関心を持っており、現在もレクリエーション生態学の研究を続けています。彼はまた、ブッシュクラフトキャンプ、緑豊かな環境開発、人的資本、荒野の医療、リスク管理、保護活動(動植物)、歴史と文化にも強い関心を持っており、地元の人々の生活様式についての洞察をクライアントに提供することができます。

Summary

- ・認定ウィルダネス メディカル インストラクター - 2016年2月よりウィルダネス メディカル アソシエイト インターナショナル (WMA)
- ・認定ウィルダネス医療インストラクター - 2019年12月よりマレーシアのウィルダネス・オースター医学協会 (WAMS)
- ・認定 Wilderness Advance Life Support (WALS) - 2018年1月より Wilderness Medical Associate International
- ・認定ウィルダネス救急医療技術者 (WEMT) - 2017年11月よりウィルダネス メディカル アソシエイト インターナショナル
- ・NAEMT 認定戦術戦闘傷害ケア - プロバイダー コース (NAEMT) - 2022年8月より全米救急医療技術者協会
- ・2017年11月より米国アラスカ州公衆衛生局認定救急医療技術者 (EMT-1)
- ・2017年6月以降、Rescue3 (R3) による Swift River Rescue の認定 River Rescue
- ・2020年から認定マスターエデュケーター Leave No Trace (LNT)
- ・2021年8月よりブッシュクラフト & サバイバル協会 (MIBSA) のマレーシア認定インストラクター
- ・2021年10月より世界認定サバイバルインストラクター協会 (SIWA) に認定
- ・2016年11月よりマレーシア人的資源省の陸上および水上アドベンチャーツアーガイドの認定国家産業専門家 (DPIN)
- ・2016年8月以来、マレーシア人的資源省スキル部門の認定外部審査員評価者および以前の技能審査員
- ・2006年1月以来、エディンバラ公国際賞財団 (DOE-IA) による認定トレーナー (T4T)、アワードリーダー (ALT) およびスーパーバイザー アセッサー (SAT)
- ・2000年以来、1100 および 1300 国際災害対応ネットワーク (IDRN) の認定を受けています。
- ・2020年より慈済国際財団 - ボランティア医療チーム (TIMA) のメンバー
- ・2017年よりマレーシア スポーツ運動医学協会 (SSEMM) の会員
- ・2020年より ARWS アジア地域シリーズディレクター (アドベンチャーレーシングワールドシリーズ) (ARWS)
- ・Dip.IT (ソフトウェア)、BIT (ソフトウェアエンジニアリング)、MSc (ワイヤレスネットワーク) PhD (レクリエーションエコロジー) (UKM, UNITAR, UPM, および MURDOCH)。
- ・スウェーデン、MORAKNIV のブランドアンバサダー。(MORAKNIV) 2017年以降

Symposium 6/4 13:00 ~



中国

Da mai

無痕中国環境教育センターの創始者、秘書長。

「無痕中国」は中国初の無痕環境教育 (LNT Environmental Education) 公益機構であり、現在済 南、杭州両地方の民政部門に正式に登録され、4 A 級社会組織である。

- 中国緑発会 (中国生物多様性保護及び緑発展基金会)
自然教育分会専門家委員会顧問
- 中国林業教育学会自然教育分会常務委員
- 中央精神文明弁公室、中国生態環境部
「全国で最も美しい環境保護ボランティア」受賞者。

専門の資格

- ・ WWF(世界自然基金会) 中国初の環境教育登録講師
- ・ NOLS(US National Outdoor Leader School)
- ・ 中国初の LNT マスター CEEC(中国環境保護部)
- ・ 全国自然教育中堅 NEAL(日本全国体験活動指導認定委員会)
- ・ 講師 PDC(オーストラリア朴門永続) デザイナー。

コース開発

- ・ オリジナル研究開発の無痕環境教育プロジェクト、生態学の課程を前後して中国公益慈善プロジェクトコンテストの金賞と3つの百強賞、中国好公益プラットフォーム優秀製品賞、フォード自動車環境保護賞、生態環境部環境保護宣教二等賞、中国科学技術協会「全国科学普及優秀活動賞」、山東省最優秀公衆環境保護実例賞などを受賞した。
- ・ UNESCO MAB(人と生物圏) 中国委員会観光プロジェクト研究開発(四川黄龍生態旅行プロジェクト)、WWF(世界自然基金会) 自然教育プロジェクト評定(江蘇同里国家森林公园)、中国国家林草局「自然教育指導士手帳」の内容編纂などに参加した。

業界での実績

現在、「体験式、ゲーム化、現地化」の原則でオリジナルに開発された無痕環境教室プロジェクトは、すでに済 南、深圳、杭州、紹興、青島、図坊、唐山、長沙、オルドスなど9つの都市に着地し、上海無痕キャンプ祭、済 南無痕キャンプ祭を開催。その他の無痕環境教育プロジェクトは国内の多くの地域でパートナーとして応用されている。無痕中国は WWF(世界自然基金会)の「身近な自然を発見する」公衆環境教育プロジェクトの華北区パートナー、山東省科学普及モデルチーム、済 南無痕自然学校は中国林学会全国自然教育学校の認定、中国環境保護部全国自然学校の試験単位の認定を受けた。

業界への影響

中国林学会自然教育講師養成(崇礼)、山東省環境保護宣教センター生態教育講師養成(済 南、聊城)、湖南省研究旅行講師養成(長沙)、生態農園自然教育講師養成(北京、石家荘)などの授業講師を務め、招きに応じて中日韓環境教育交流会、中国国家林草局全国自然教育研修討論、中華環境保護連合会自然教育フォーラム、広東及び河北体育局屋外試合、湖南生態農業朴門フォーラム、山東省民政庁社会組織訓練、南都公益基金会年会、アラソン SEE 基金会年会などでの講師対応やゲストとの情報交換を行う。



Symposium 6/4 13:00 ~



フィリピン

Lito De Veterbo

Official name: Claro B. De Veterbo Jr.

A.K.A. Mister LNT
in the Philippine mountaineering community
LEAVE NO TRACE Master Educator

PROFESSIONAL BACKGROUND

Operations Manager,
Canon Business Process Services Philippines

SPONSORSHIP / PARTNERSHIP

Dueter Philippines – Brand ambassador,
Decathlon Philippines – Brand ambassador

NARRATIVE INTRODUCTION

環境への影響を最小限に抑えるための適切なアウトドア倫理は、基本的に Leave No Trace 原則 (LNT) に基づいた彼の提唱の根幹であり特徴です。フィリピンのマニラを拠点とする訓練を受けた登山家である彼は、2012 年以来、クイック トーク、意識向上ワークショップ、トレーナーコースを通じて、フィリピン全土で Leave No Trace の原則を共有してきました。

2016 年、彼は適切なアウトドア倫理を促進し共有するために、リーブ・ノー・トレース・キャラバンを通じてフィリピン中を旅するボランティアのチームに加わりました。移動教育プロジェクトとして設計されたこのキャラバンは、数例を挙げると、ナガ市、スービック、シライなどの場所で、楽しくインタラクティブな「痕跡を残さない」啓発ワークショップを実施しました。2022 年に新型コロナウイルスの規制が緩和されると、彼は 2016 年に残されたものを継続するためにキャラバンを復活させた。2022 年 9 月以来、キャラバンはセブ、東ネグロス、タルラック、リサール、マニラを飛び回っている。

2018 年、米国のノースカロライナ州とテネシー州にまたがるグレート・スモーキー山脈でのリーブ・ノー・トレース・マスター・エデュケーター・コースを修了した。このコースは、米国に本拠を置くリーブ・ノー・トレース・アウトドア倫理センターが提供する奨学金の一部を利用し、以下の支援を得た。アパラチアン・トレイル・コンサーバンシー (ATC)。5 日間のトップレベルのトレーニング コースは、フィリピンのアウトドア コミュニティに知識を伝えるという目的に向けて LNT を学ぶ彼の努力の集大成として位置づけられました。

フィリピンで LNT 教育者を育成するという個人的な特権に動かされて、彼はリーブ・ノー・トレースについて他の人に教育するためのテクニクと方法論を教えることを目的とした 2 日間のトレーニング活動であるリーブ・ノー・トレース・トレーナー・コースを企画し、引き続き開催しています。このコースの以前のセッションでは、参加者が実際の学習と指導の経験を積むために、フィリピンのパターンのナティブ山とタルラックのタンギサン山をトレッキングしました。

フィリピンの登山界ではミスター LNT として知られる彼は、主に週末にリーブ・ノー・トレースの取り組みを続けています。屋外に出ない平日は、マニラに拠点を置く民間会社でフルタイムで働いています。



SINCE 1975

mont-bell

フィールドに快適な寝心地を

— 独自のシームレス構造と伸縮性 —

EX
DOWN

SUPER
SPIRAL-STRETCH[™]
US patent No. 7,900,301



シームレス ダウンハガー-800 #3
レッド(SURD)

シームレス
ダウンハガー特集



2種類の高品質ダウン



隔壁をなくすシームレス構造



体の動きを妨げない伸縮性



目的に応じて選べるシームレス ダウンハガー シリーズ

800FP
モデル

800FPダウンと、超軽量シェル素材を
組み合わせた軽量モデル

ブルーグリーン
(BASM)



EX 800

#1121401

シームレス ダウンハガー-800 #3 ¥34,100 (内税10%)

防水
モデル

超高品質ダウンと防水透湿性素材を
組み合わせたフラッグシップモデル

ブルーグリーン
(BASM)



EX 900

#1121391

ドライシームレスダウンハガー-900 #3 ¥51,150 (内税10%)

Workshop 1- ① 6/3 15:00 ~

LOD でリーダーシップを育む

発表者



林 健児郎／
大阪 YMCA



島崎 晋亮／
株式会社信州アウトドアプロジェクト



WEAでは野外指導者に必要なスキルとして、「野外生活技術」「遠征計画」「リーダーシップ」「リスクマネジメント」「環境に対する責任」「教育」の6つを柱とし、全てのスキルを横断するものとして「判断」を挙げ、WEAカリキュラムにおいて最も重要なスキルと位置づけています。本ワークショップでは「リーダーシップ」を取り上げ、リーダーシップの定義やリーダーシップ論、リーダーシップスタイルなどの基礎的な内容を理解するとともに、Leader of the Day システム（以下、LOD）を体験し、リーダーシップを育む方法を体感することを目的としています。

指導者として経験を積んでくると、自分自身のリーダーシップについて振り返る機会が多くなります。自分のリーダーシップはこれでいいのかと自問したり、もっとリーダーシップを身につけたいと思ったりすることもあるでしょう。また、スタッフや参加者のリーダーシップをどのように育成したらいいか、悩むこともあるでしょう。

「野外体験（キャンプ）でリーダーシップを育む」とか、「野外体験（キャンプ）でリーダーシップが身につく」ということは昔から言われてきました。野外指導者としては、野外体験の効果としてそうあって欲しいと、みなさん思っていることでしょう。しかし、ただ野外体験させればよいかというそうではなく、指導者がリーダーシップの定義だったり、リーダーシップ論やスタイルを理解し、戦略的にアプローチしないと、なかなか身につかないものです。

WEA の LOD は、リーダーシップを育成するのに非常に効果的です。リーダーはグループが目的を達成できるよう支援し、その方法やタイミング、プロセス等について、グループメンバーからのフィードバックを受けることで、リアルなリーダーシップを育んでいきます。毎日に交代するリーダーは、それまでのリーダーに対するフィードバックを自身のリーダーシップに反映させたり、リーダー経験者がサブリーダーとしてリーダーを支援したり、もう一度リーダーにチャレンジしていきます。本ワークショップでは、模擬的な遠征場面を設定し、参加者のみなさんにリーダーやその他の役割を担っていただき、LOD を体験していただきます。

参加者の皆さんのリーダーシップに対する思いや現状を共有しながら、WEA カリキュラムを体感して学ぶ時間にご期待ください。

Workshop 1- ② 6/3 15:00 ~

LNT の環境講座

Environmental course of LNT

ファシリテーター



Da Mai / ダ・マイ



LNT の環境コース

LNT 中国は、山、湿原、川、都市公園などの観光地で、生態系の特徴に基づいた 90 分の LNT 体験コースを開発しました。このコースのほとんどは、約 800-1200m のトレイルを歩きながら行います。その中で、LNT の原則、ゲーム、課題、ゴミ拾いなどを、ルート上の生物多様性、生態的多様性、文化的多様性に基づいて、「導入」「構築」「行動」「共有」の 4 つのモジュールで行います。参加者と体験を共有した後に、LNT の体験証明書が渡されます。



Workshop 1- ③ 6/3 15:00 ~

「保全体験 型ナイトツアー AKISAMIYO」に LNT を！

発表者



妹尾 望／

やんばるリンクス／やんばる案内人 Tida-Smile

世界自然遺産やんばる地域の新しいサステナブルツアー

「保全体験型ナイトツアー AKISAMIYO」に LNT を！

～ Don'tではなくLet'sな思考で

やんばる型サステナブルツーリズムの未来をみんなで考えよう～



このワークショップでは、2021 年 7 月に世界自然遺産に登録された「やんばる地域」での新たな取組み「保全体験型ナイトツアー AKISAMIYO」※1 をご紹介しながら、参加者の皆様と、やんばる型サステナブルツーリズムの未来について、考えていきたいと思います。

AKISAMIYO ツアーは、従来の自然観察ツアーとは異なり、「やんばるの森」の現状を調べる環境モニタリング調査を体験しながら、夜の森で希少な動植物や星の観察、漆黒の闇の体験、街の喧騒とは違った自然の音など、五感を通してやんばるの森を体験してもらうツアーです。

このツアーは、世界自然遺産地域の保全と利用のバランスに配慮したガイドラインに基づいて実施され、また参加者には責任ある立場でツアーに参加することを誓約する「やんばる約束」に同意してもらったり、ツアー代金の一部（500 円 / 人）を「やんばる自然環境保全金」として、やんばるの森の保全活動に活用したりするなど、自然環境に配慮したツアー運営を目指しています。

一般的に、ガイドラインや誓約書などは、「～してはならない」という禁止事項によって、ガイドや参加者にルールを課してしまいがちです。そして、AKISAMIYO ツアーも、その様なルールがいくつかあります。そこで、参加者の皆様の知恵と経験を存分にお借りして、LNT の DNA をこの AKISAMIYO ツアーに取り入れるとともに、世界自然遺産やんばるでのサステナブルツーリズムについて、意見交換したいと考えています。



株式会社 信州アウトドアプロジェクト

野外教育/コミュニティビジネス
〒389-2703長野県下水内郡栄村堺6032-1
<http://outdoorproject.jp/>
info@outdoorproject.jp
0269-87-3387

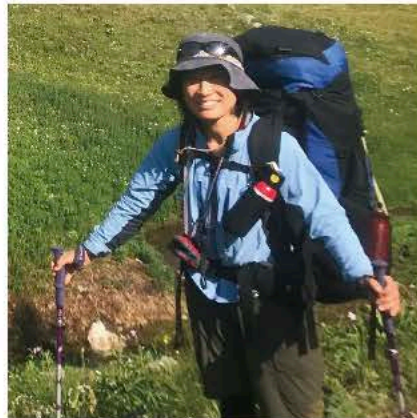
Workshop 2-① 6/3 17:00 ~

見えないチカラ ～多様性を見つめるチカラ持っていますか？～

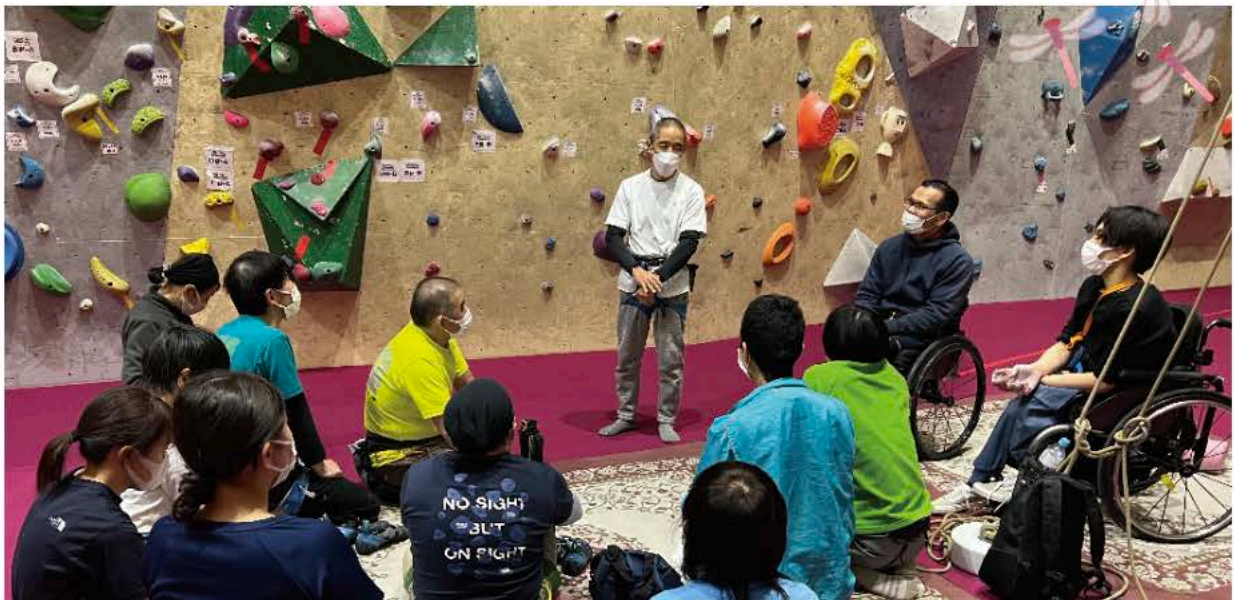
発表者



小林 幸一郎／
NPO Monkey Magic



林 綾子／
びわこ 成蹊スポーツ大学



WEAの創始者である、Paul Petzoldt は、指導者の資質として参加者理解を重要視していました。どういったバックグラウンドの人なのか、どういった活動をしたい人なのか、参加者をよく知ることが指導の始まりであり、個性や多様性豊かな集団形成がより教育的な価値を生み出すと考え、多様なバックグラウンドの生徒やインストラクターをリクルートしていたそうです。グローバル化・多様化の時代において、指導者として、参加者個々の個性や多様性を理解したうえで集団を形成する力はますます重要になっているのではないのでしょうか？では、アウトドアリーダーとしての、多様性を見つめるチカラとはどのようなものなのでしょうか？持っていると言えますか？

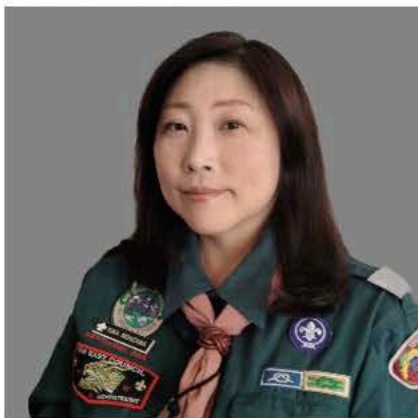
本ワークショップでは、フリークライミングの普及を通じた視覚障害者をはじめとした人々の可能性を大きく広げ、多様性を認め合うことのできるより成熟した社会の実現を目指す活動を NPO 法人モンキーマジックの設立者であり、自身も 23 年 3 月までパラクライミングの競技者として大会出場を続けていた小林幸一郎の活動の紹介や、彼の持つ“見えないチカラ”による多様性の理解について、アクティビティを用いて参加者のみなさんと共に考えることを目指しています。アウトドアという 5 感をフルに活用する活動には多様性理解や普遍的価値の共有のチャンスが溢れています！

アウトドアリーダーとして、多様性を見つめるチカラを身に付け、アウトドアの特性と参加者の多様性を活かすことができれば、これからの時代に求められる新たな体験の価値を生み出す可能性が広がるのではないのでしょうか？

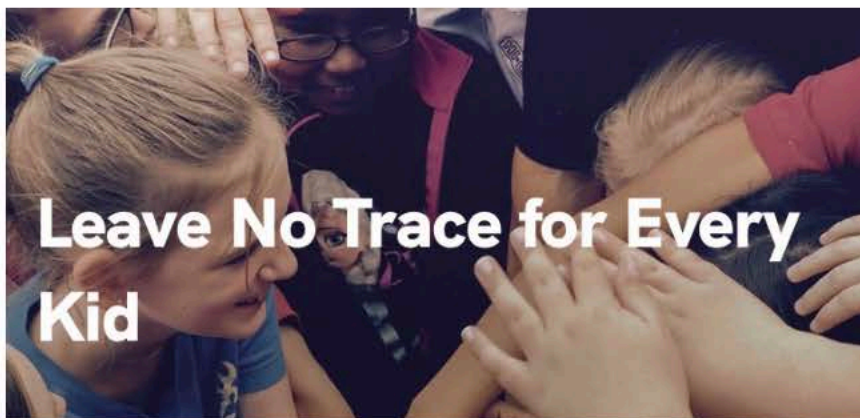
Workshop 2-② 6/3 17:00 ~

ボーイスカウト式！子ども向け LNT

ファシリテーター



西沢 ゆか
Boy Scout of America, Crew20 Advisor



アメリカでは国立公園をはじめ広範囲に活動が行われているリープノートレースですが、日本ではリープノートレースジャパンが国際ランチとして立ち上がったところで、日本でも子ども向けの教材やアクティビティを充実させてほしいという要望が多いのが現状です。今後、日本でリープノートレースが普及するにあたり、いろんな場所で子ども向けリープノートレースを活用していくことがますます重要になってくるでしょう。

そこで、本ワークショップでは、「ボーイスカウト式！子ども向け LNT」を実際のプログラムを用いながら説明します。実は、アメリカのボーイスカウトでは、1955 年に「Outdoor Ethics(野外倫理)」をプログラムに取り入れて以来、自然保護の教育活動を積極的に行ってきました。リープノートレースについても同様にボーイスカウトのランクや表彰の要件として組み込まれています。子どもと自然の関わりを大切にしながら、ボーイスカウトではどのようにリープノートレースを実践しているのかを紹介いたします。それぞれのランクごとに課題があり、その指導マニュアルもありますが、それに限らず、アウトドアプログラムのさまざまなところでリープノートレースを取り入れて子どもたちに伝えています。

また、リープノートレース各 7 原則ごとの「子ども向けアクティビティ」も紹介します。キャンプやハイキングといった野外活動だけでなく、ご家庭や学校でも使えるリープノートレースと一緒に見ていきましょう。こんなところにも LNT が！と新たな発見があるかもしれません。

その後、会場のみなさん、及びオンラインで参加のみなさんにも、アクティビティを実際に体験してもらい、子ども向けリープノートレースではどんな点に気をつけなければならないのか考える場とし、より深い理解をしていただければと思います。

野外活動を行っていらっしゃるリーダーの方々、ユースリーダーの方々、学校や塾などの教育関連の方々、親子での参加也大歓迎です。「ボーイスカウト式！子ども向け LNT」を楽しみながら一緒に体験しましょう。

Workshop 2-③ 6/3 17:00 ~

あなたの団体のリーガルディフェンスは大丈夫ですか？

～ オンラインアウトドアリスクマネジメントコースの紹介～



発表者

岡村泰斗／株式会社 backcountry classroom

やらなければならないとわかっているけど、何をしてよいのかわからないリスクマネジメント。そもそも野外事業は、リスクがあるから人気があるのです。

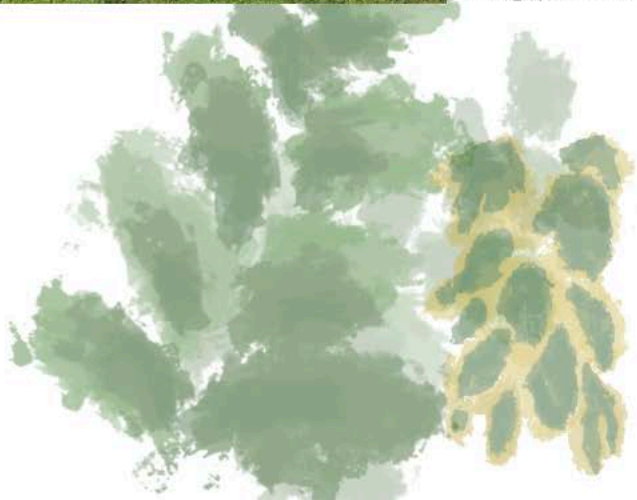
野外事業の民間スタンダードや国家基準がある国では、基準が明確で、雛形もあるので、安心して参入できます。

WEA も、団体公認基準はあるのですが、そこにたどり着くまでは、指導者個人の資質にフォーカスし、団体のリスクマネジメントは自助努力。多種多様なアクティビティを含む野外業界は、統括団体間での情報交流も限界が、業界横断的な基準づくりは極めて困難。

このような我が国の状況を打開すべく、この度世界50カ国で採用されている、アメリカピリスター社のオンラインアウトドアリスクマネジメントを、この冬日本でもいよいよローンチします。国内屈指のアウトドアリスクマネジメントの研究者、実践者を講師に揃え、アメリカの負けないコースを提供します。

このワークショップでは、コースの全体像の紹介と、特別に、コースの一部を切り抜いて、皆さんの団体のリスクマネジメントチェックを行おうと思います。また、評価結果に基づき、足りないところの情報交換を通じ、フロア全体でリスクマネジメントスキルをアップしたいと思います。

リスクマネジメントは、みなさんの参加者、ステークホルダー、業界を守るだけでなく、みなさんの団体を存続させ、ミッションを達成することのできる、唯一無二のツールです。





【HP】 【Facebook】 【Instagram】 【X(旧Twitter)】



Workshop 3- ① 6/4 9:00 ~

我々はそれをなぜ良きものとして体験するのか

発表者



阪田 晃一／神戸 YMCA

～ 体験の深みはどこからやってくるのか？～

現代においては、多くの人間が「豊かな自然環境の中での、(孤独ではなく)誰かと何かを一緒に体験すること」に、重要性を感じている。生きがいを感じている。

つまりある体験を良きものとして体験している。

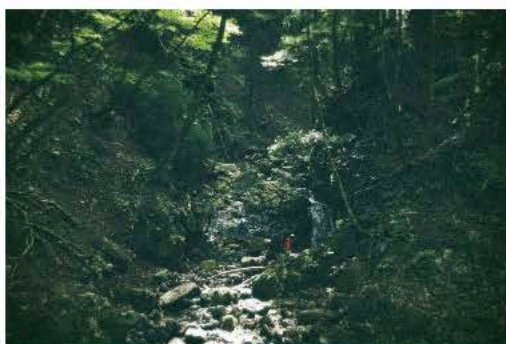
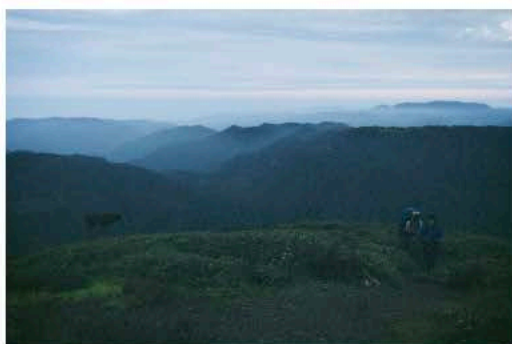
たとえその体験が学習され、血肉となっていくように促進されているもの(例えば、安全を守るのは最優先だとして、道迷いや参加者同士のコンフリクトなども、良い教材だとされる。)

だとしても、指導者も含めてその体験は良きものだという「前提」に基づいて事に当たっている。

では、私たちは遠征やキャンプでの体験を、なぜ「良きもの」として体験するのか？

ある体験が良きものとして認識される時、その良きものの外に何があるのか？

参加者とのディスカッションを通して考察を深めたい。



はじめに

私たちは遠征やキャンプを通して、人々にさまざまな「体験」を提供している。目的に多少の違いはあれど、その体験を通して、人々の幸福を願っていることに変わりはないだろう。これらの営みは「体験消費型」ビジネスとも言われる。一般的な観光とは違い、一見すると「悪い」体験も、良きものとして参加者に提供する(しなければならない)。もちろん安全を守るのは最優先だとして、道迷いや参加者同士のコンフリクトなども、良い教材だとされる。

体験学習理論とその動機づけのリアル

Kolb(2015)による体験学習理論では、指導者は学習者の学びを最大化するために4つの役割を演じる必要があるとしている。個人の体験を振り返る第一段階では促進者(ファシリテーター)として、体験に対する考察を整理し知識へと結びつける第二段階では専門家(Expert)として、概念化の過程では標準化を、そして応用に向けての第四段階ではコーチングが肝だとする。なるほどこれを見れば、私たちは確かに体験を扱うことができるかもしれない。しかし実際フィールドではどうだろうか。一緒に何かを体験したとして、その体験から感じるものは人によって違う。参加者も指導者も感じ方は千差万別だ。千差万別というより「確かに同じものを体験した」かどうかを実証することは論理的にできず、それを当てにすることしかできない。

体験の深さはどこからくるのか？

脳科学で言われる「クオリア」は、「体験の質」を問題にしている。例えば私が夕日の「赤」を見て何かを感じたとして、あなたが同じ夕日の「赤」を見て何かを感じたとする。共に「赤い夕日だね」と言ったとしても、同じ「赤」を体験しているのかは論理的に実証できない。でも実存的には、ほとんど同じ赤のことを言っているかと当てにしている。そこに不思議さがある。同じ体験を共にしているのに、その体験からの学びに、深さの違いがあるのかのように感じるのはなぜだろうか？

< 社会 > と < 世界 >

人類学は、人々が言葉を使って生活するようになる(法生活)以前の人間の営みを記述している。社会学者の宮台真司は、法生活以降の営みにおける< 社会 >を、「言葉によるコミュニケーションの総体」とし、「言葉で記述できないあらゆる全体」を< 世界 >とした。いまは分離しているように感じる< 社会 >と< 世界 (= 社会の外部) >も、法生活以前は重なり合っていた。進化心理学が教えるのは、人類は少なくとも20万年間、社会と世界が同一の世界(遊動段階)を生きていたということだ。数理生物学者の郡司ベギオ幸夫は、人間が認識と認識の積算によって何かを導き出す能力を「人工知能」とし、認識と認識のギャップにやってくる「外部」によって何かを導き出す能力を「天然知能」として、人間の意識についての見解を示した。天然知能とは、人が何かを「認識する」と「感じる」の隙間に、何かが「やってくる」ことに開かれる能力であり、その時にはじめて人は何かが「わかる」とし、むしろその隙間があること(天然知能こそ)が、人間が人間である所以だとする。

引用文献

Kolb, David A. Experiential Learning (2015)

郡司ベギオ幸夫やってくる(2020)

かつてそのゲームの世界に住んでいたという記憶はどこから来るのか(2022)

Workshop 3- ② 6/4 9:00 ~

フロントカントリーとは？ ～多様性を見つめるチカラ持っていますか？～

発表者



小口 良平／
合同会社トビチカンパニー
「grav bicycle」



久保田 雄大／
合同会社 Waqua



小口良平は自転車で約8年半、世界160ヶ国、約15.7万kmを走りました。帰国後は、サイクリングツアーガイドとして、キャンプツーリング（野外冒険教育系）とアドベンチャーツーリズム（観光系）に取り組んでいます。自転車はフロントカントリーやバックカントリー、また街中を移動し続けます。なぜ、自転車旅にLNTが必要なのかを考える、初心者向けのワークショップを開催したいと思います。私自身が世界自転車旅で地球に与えてしまったインパクトの強さを猛省しています。世界自転車旅の風景写真とともに、参加者の方とディスカッションするワークショップになります。私のミッションは「すべてのアースサイクリストにLNTを “LNT as standard equipment for every cyclist.”」です。今回のワークショップの中で、ちょっぴりリラックスしたい方向けの内容になります。

Workshop3- ③ 6/4 9:00 ~

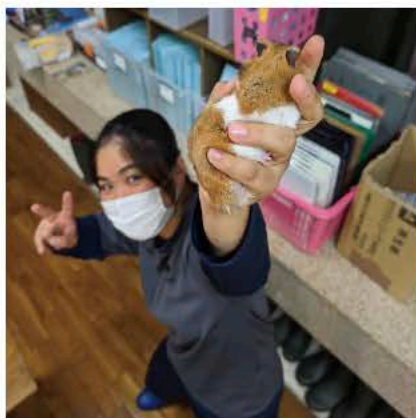
Think Globally Act Yamubally

～地球規模で考え、行動はやんばるから～

発表者



東 竜一郎
辺土名高校非常勤講師



上原 蓬
辺土名高校環境科 3 年生



みなさんは、全国でも唯一無二と言っても過言ではない、野外での自然体験学習に特化した高校が沖縄にあることを知っていますか。それが沖縄島最北端、世界自然遺産「やんばる」地域にある沖縄県立辺土名高校です。本校は今年で創立 78 周年を迎えた伝統校ですが、近年はやんばる三村（国頭村、大宜味村、東村）の過疎化の影響などで生徒数の減少が顕著でした。2001 年には環境科を開設、フィールド学習をカリキュラムの中に取り入れ、研究分野などで一定の成果は上げてきましたが、それでも生徒数の増加にはつながりませんでした。そこでサイエンス部を中心に 2015 年辺りから取り組んできたのが、①学校生き物博物館を活用した外部に対する環境教育、②地域の企業と連携したエコツアーガイド有償インターンシップ、③その道のプロ（専門家）と連携した共同研究、④世界自然遺産登録に向けた地域活動への積極的な参加、などです。これらの活動は新聞やテレビなどマスコミにも多く取り上げられ、昨年度から今年度と入学者の増加傾向が見られています。また、今年の 8 月には第 24 回全国高校生自然環境サミットが本校で開催されます。これは、やんばるの自然を体験しながら交流し、互いの地域の自然や地球規模の環境問題についてもディスカッションして、自分たちにできることを考え、発信するという企画です。素晴らしい大会にできるように準備を進めています。これまで、世界自然遺産登録に向けた活動に積極的に参加してきましたが、これから、世界自然遺産となった「やんばる」の高校として何ができるのか、何を望まれているのか、「5 年後、10 年後のやんばる」についてみなさんと共に考えていきたいです。

自然に跡を残さない 焚き火台+遮熱シート

NT Fire Stand



焚き火の 跡を残さない

焚き火の熱による地面へのダメージを最小限にしたいという思いから生まれました。
焚き火をするのに火床だけでは地面に直接熱が伝わってしまうため、焚き火からの放射熱をカットする「遮熱板・灰受け」に加え「遮熱シート」を備え付けました。これにより地面へ伝わる熱を70%軽減することに成功しました。 ※数値は試験による

コンパクトで 機能的

収納時はコンパクトで1.2kgと軽量ながら、40cm前後の長い脚を設けても余裕がある大きさです。
五徳の高さを2段階に調整できるため、火力の調整が簡単で調理の幅も広がります。
従来のコンパクトな焚き火台にはない高い機能性を備えた新しい焚き火台です。



ZEN CampsはLNT Japanの活動を応援しています。



ZEN Camps Official Site

Workshop 4-① 6/4 11:00 ~

海辺の野外体験と教育から、未来のツーリズムに繋がる人作りを考える

発表者



星原 貴保／
一般社団法人
沖縄県美ら海教育学校代表理事



阿部 健司／
一般社団法人アクアスポーツインター
ナショナルアカデミー (ASIA)
理事 事務局



遠矢 英憲／
名城大学人間健康学部
スポーツ健康学科 上級准教授



野外体験の教育的効果は山の分野に関する事例は数多く、残念ながら海に関する分野の教育手法や機会はまだまだ少なく感じています。

山や川、マングローブ湿地帯等、亜熱帯海洋性気候が創り出す沖縄の多様な自然環境がある中、海はとても大きな野外体験フィールドの一つとなります。特に沖縄では代表的な野外体験フィールドである「海での体験事例」を元に、様々な手法による海辺の野外体験の教育的効果や沖縄の海の魅力についてご紹介し、更には皆様と海での体験活動の意義やその効果を考察し、将来的には「海も野外活動のフィールドである」との理解をしていただけるよう、建設的な意見交換ができればと考えております。

学校教育、企業研修、ツーリスト等、幅広く海洋教育を通しての人作りに取り組んでいる中で、スノーケリングやスクーバダイビングを用いた教育等、我々の事例をご紹介しながら、マリンスポーツを通じて、どのようなリーダー育成の仕方があるのか？未来に繋がる人作りとは、どういったものなのか？山の分野の皆様との繋がる可能性等、海も山も分け隔てなく次世代の人作りについてディスカッションすることで「柔軟性と新たな発想」を見出し、それらを多様なフィールドで演出することでより効果的な野外教育を皆様と共に創造していきたくと考えております。

また、各地のメジャーフィールドでは同様にオーバーツーリズムや環境問題等の課題が山積しておりますが、多くの野外活動団体が発実践している啓蒙活動や人口対策が必要であると同時に、実際にどのような対策を講じているのか、現地の受け入れの難しさや課題なども含めて解決に向けての意見交換が出来ればと思います。

さらに、野外活動で社会の課題を解決していく方法とはどういったものなのか、野外活動の価値を上げる社会を作り出すためにはどうすれば良いのか、そのために必要な各地で将来のツーリズムを担う新たな人作りに繋げるためにはどうすれば良いのか等、野外活動を通じて夢や希望のある社会を構築するための、ワクワクするような「レスポンスブルツーリズム」や「サステナブルツーリズム」について、皆様と一緒に考えていきたいと思います。

Workshop 4-② 6/4 11:00 ~

LNT Awareness Workshop

ファシリテーター



リト (Lito De Veterbo) /
Leave No Trace Master Educator, (Mister LNT)



LNT アウェアネスワークショップは、一般市民が LNT の野外倫理を学ぶために計画されたエントリーレベルのコースです。その内容は、特定の環境に合わせたたり、参加者の特性に応じて調整されます。参加者は、こども、大学生、野外指導の専門家など、LNT を学び環境へのインパクトを最小限にすることに興味のある全ての人を対象です。このワークショップでは、LNT の原則を、楽しいゲームや参加者との交流を通じて体験します。ワークショップの最後には、環境に対する責任を理解することができます。

1. 事前の計画と準備 / 2. 影響の少ない場所での活動 / 3. ゴミの適切な処理 /
4. 見たものはそのままに / 5. 最小限の焚き火の影響 / 6. 野生動物の尊重 /
7. 他のビジターへの配慮

Reserch Seminar 6/4 11:00 ~

『双減』政策の基に上海中学校における野外教育の在り方について研究

発表者



叶敬偉／
上海市市北初級中学

研究概要：

- 中等学校で野外教育の普及振興の可能性について、下記により検討を進めている。
1. 今の中学校における、野外教育に関する情報と学生たちの野外教育への意識をまとめる。
 2. 政府および中等学校の体育のシラバスから健康とスポーツのティーンエイジャーに関する方針を探している。
政府の補助金と上海の周りの野外施設をまとめている。
 3. 学生たち、親たちと教育者からの野外教育における意識を明らかにする。

研究背景：

2021年7月、中国教育部と国務院は義務教育における学生の宿題と塾の負担を軽減することを発表した。少子化対策の一環といえ、現代の中国では塾の教育費の負担がとて大きく、『2人目、3人目の子どもなんてとても無理』という親が多いため、その状況を打破したいようである。「住宅費と教育費の問題を解決しないと子どもを安心して産めない」と話している。政府は「子どもにお金と手間がかかりすぎている現状を改めないと少子化は解決しない」と考えているようである。続いている「双減」政策は塾の時間を制限して、学生のレジャー時間を保証し、それに応じて体育、芸能とアートに遣い時間を増やしている。



教育の力で世界をhappyに！
Essential Education Center
for Self Establishment since 1997





世界50カ国以上で導入実績のあるコースが日本初上陸

VIRISTAR

OUTDOOR RISK MANAGEMENT ONLINE COURSE

第1回目
オンライン
セミナー

11/29 WED 12:00-13:00

第2回目 12/6 第3回目 12/13 第4回目 20日 第5回目 12/27
受講者の都合により日が程前後数日変更することもあります

オープン価格

65,000 円

9名まで



01 ビデオミーティング

週に1回90分のビデオミーティングが5回あり、自主学習の発表、グループ討議を行います。

02 eラーニング

ビデオレクチャー、ワークシート、ケーススタディなどを用いて、毎週10時間程度の自主学習を行います。



03 リスクマネジメントプラン

コースを通じて、みなさんの団体に必要なリスクマネジメント関連書類、研修計画などの具体的な計画を作成します。

04 アウトスタンディングレクチャー

我が国のアウトドアリスクマネジメントを代表する講師陣がみなさんの学びをサポートします。



村越真 (静岡大学)
日本山岳ガイド協会特別委員



中村正雄 (大東文化大学)
日本キャンプ協会安全委員会委員長



平井琢 (リバーガイド)
日本ラフティング協会安全委員会委員長
Rescue3 SRT-1 インストラクター



高山昌紀 (アウトドアエディタール)
WSAI Corporate Governance Committee
WEA Certified Outdoor Educator

あなたのリスクマネジメントは本当に大丈夫ですか？

リスクマネジメントは、あなたのカスタマー、スタッフ、ステイクホルダーを守るだけではなく、あなたの団体をいつまでも存続させ、ミッションを達成するために不可欠です。

法律監修に基づく指導

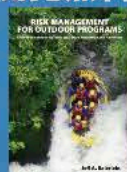


弁護士 稲垣啓仁
(第二東京弁護士会所属)

アウトドアに精通した弁護士が、コースで使用するテキストブックの法律監修を行い、受講者からの法律に関連する質問に関し、講師陣の回答をサポートします。

アウトドアリスクマネジメントテキスト閲覧無料

パート1: リスクの概念 / 業界基準 / 法的防衛 / パート2: リスクの領域 / パート3: リスクマネジメントの方法 / 全300ページ / ワークシート付き / ペーパーブック定価3,000円(予定)



Presented by
backcountry classroom Inc.

THE 11TH OUTDOOR LEADERSHIP CONFERENCE Exective Committee

実行委員長



遠矢 英憲

名桜大学
人間健康学部 スポーツ健康学科
上級准教授



下地 正敏

キャンプ沖縄事業協同組合 代表理事
沖縄県キャンプ協会 会長



久高 友嗣

キャンプ沖縄事業協同組合 専務理事



新城 拓馬

FW やんばる 社長



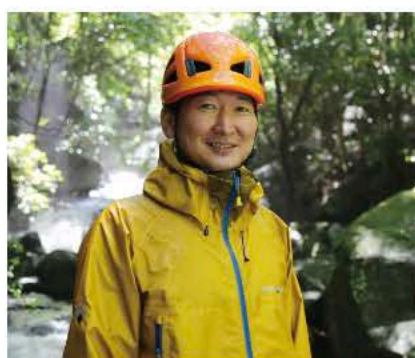
阿部 健司

一般社団法人アクアスポーツインター
ナショナルアカデミー (ASIA)
理事 事務局



松本 聡

沖縄県立桜野特別支援学校
中学部・保健体育科



森本 弘太

エンカレッジ株式会社



西日本新聞社

THE NISHINIPPON



自然に包まれ、自然を喜び、自然に学ぶ



CAMPING ASSOCIATION OF OKINAWA

沖縄県キャンプ協会



web



Insta



THE 11TH OUTDOOR LEADERSHIP CONFERENCE



<http://11thconf.weaj.jp>